

こども学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
2年	63～64	情報処理Ⅱ
2年	83～84	教育方法論
2年	112～113	基礎演習Ⅱ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-0-HSC-03					
		●		●							
科目名	情報処理Ⅱ				単位認定者	菅原 弘 早坂 正年		評価の方法	試験 (レポート)	60	%
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	10	%
					授業形態	演習	授業回数		15 回		
授業の概要	保育・教育現場では「書く・伝える」ことが日常的に行われ、大切な業務の一つとなっている。それは同僚間のみならず、保護者に対しても連絡帳やお便り等を通して実践していかなければならず、保育者にとってみれば必要不可欠な能力である。本授業では情報共有の重要性やリテラシーについて学び、様々な媒体を通じた情報提供の方法を実践的に学修し、活用できるようにする。										
到達目標	1. 情報共有の重要性を学び、的確な情報交換を実践することができる。 2. 多種多様な連絡・報告手段を学び、それらを適切に活用できるようになる。 3. 保護者への情報提供を、わかりやすく且つスムーズに行うことができる。										
学修者への期待等	授業から得られた知識をしっかりとアウトプットできるよう、主体的に学修に臨むこと。また、授業での学びが滞ることがないように教科書や配布資料、UNIPAへ掲載の資料等を熟読して授業へ参加すること。										
回	授業計画					準備学修				事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
1	保育現場で扱う情報の種類と目的 ICTを活用した双方向型授業					事前学修：既習科目を振り返り、保育における情報活用を把握しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。				30	30
2	情報モラル メール、SNSマナー					事前学修：メディア等を活用し、ICT活用における諸問題を把握しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。				30	30
3	WEB情報等の活用上の留意点					事前学修：メディア等を活用し、ICT活用における諸問題を把握しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。				30	30
4	保育・教育機関における情報発信の実際と留意点					事前学修：指導計画等に文書形式等を検索し概要を把握しておく。 事後学修：保育所等での情報発信における留意点を整理する。				30	30
5	情報共有の具体的方法					事前学修：連絡帳等の具体的な記載方法を確認しておく。 事後学修：情報発信及び保護者との情報共有の具体的方法の種類と留意点を整理する。				30	30
6	指導計画を基にした教材作成実技とその共有					事前学修：指導計画及び指導案の概要を確認し具体例を準備する。 事後学修：指導内容を展開する上での具体的な工夫と共同吟味の方法を整理する。				30	30
7	保護者へのおたよりやドキュメンテーションの理解と取材					事前学修：園だよりとドキュメンテーションの具体例を検索し概要を把握しておく。 事後学修：園だよりの作成上の留意点を整理する。				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	保護者との情報共有①（ドキュメンテーション）説明	事前学修：レッジョ・エミリアの実践について調べておく。 事後学修：ドキュメンテーションの作成上の留意点を整理する。	30	30
9	保護者との情報共有②（ドキュメンテーション）作成実技	事前学修：作成するドキュメンテーションの題材を準備しておく。 事後学修：自作ドキュメンテーションの改善点を整理する。	30	30
10	保護者との情報共有③（保護者へのおたより）説明	事前学修：園だよりに掲載する教材や実習の振り返り等の記事候補を準備しておく。 事後学修：作成する園だよりの概要をイメージし掲載資料を検索し準備する。	30	30
11	保護者との情報共有④（保護者へのおたより）作成実技	事前学修：作成する園だよりの具体的イメージを固めておく。 事後学修：自作園だよりの改善点を整理する。	30	30
12	AIを活用した保育業務の効率化 Webアンケートによるデータ収集と分析	事前学修：メディア等を活用し、AI活用におけるモラルを理解しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。	30	30
13	地域（社会）への情報発信と情報共有① ホームページの説明	事前学修：保育園等のホームページを複数閲覧し、基本構造を把握する。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。	30	30
14	地域（社会）への情報発信と情報共有② ホームページのデザイン	事前学修：保育園等のホームページデザイン案を検討しておく。 事後学修：関連資料などを基に授業内容を振り返り、復習を行う。	30	30
15	地域（社会）への情報発信と情報共有③ ホームページの作成実技 保育・教育の情報化の今後と課題	事前学修：これまでの授業回を振り返り、既習内容を整理しておく。 事後学修：学修目標の到達度を自己評価し、今後の課題を明らかにする。	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（実技）			
教科書	適宜、資料を配布する。			
参考文献	適宜、参考資料を提示・配布する			
備考	製作や発表の時間もあるので、授業外でも計画的に準備を進めておくこと。また、演習・発表等にふさわしい姿勢や態度を心がけ、意欲的に授業に参加すること。授業で提示した課題については、回収後に内容を確認し、以後の授業時に返却する。 なお、1学年を2クラスに分けて実施し、菅原、早坂それぞれが1クラスずつ担当する。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-12				
		●		●						
科目名	教育方法論				単位 認定者	堀之内 敏恵		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本講義では、前半は学習理論や教授方法、教室でのコミュニケーションなど、教師の行動のありようを 実践事例を通して学んでいく。後半は教育メディアをめぐる現状について理解を深め、それらの有効な活 用方法について考える。教育の方法、技術に関する基礎的な理論を学び、それらを実践で活用するための 基礎力を培うことを目指す。									
到達目標	・教育方法に関する基礎的な理論と考え方を理解できる。 ・教育の目的に応じた指導方法や技術を整理・説明できる。 ・幼児教育における情報通信機器の活用について理解し、グループで指導案を作成することができる。									
学修者への 期待等	講義形式を基本とするが、グループワーク（指導案の作成）、意見交換等も行うので、積極的な授業参 加を期待する。日ごろから教育に関する報道に関心を持ち、情報収集すること。									
回	授業計画					準備学修			事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	授業ガイダンスと教育方法論への導入 「教育方法」とは（ディスカッション）					事前学修：これまで受けてきた授業の中 で印象に残っている授業について思い返 しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の 学生の回答も確認する。			30	30
2	教えるという行為①変容					事前学修：「教える」という行為と「変 容」との関係について考えてくる。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の 学生の回答も確認する。			30	30
3	教えるという行為②効果（ディスカッション）					事前学修：「教える」という行為の「効 果」について考えてくる。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の 学生の回答も確認する。			30	30
4	教えるという行為③伝達					事前学修：「教える」という行為の「伝 達」の側面について考えてくる。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の 学生の回答も確認する。			30	30
5	教えることと学ぶこと 発達の最近接領域					事前学修：「発達の最近接領域」という 概念について調べておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の 学生の回答も確認する。			30	30
6	学習方法 一斉学習、グループ学習、個別学習（グループワー ク）					事前学修：1年次に学んだ教育の思想、歴 史について復習しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の 学生の回答も確認する。			30	30
7	学習理論 経験学習、系統学習					事前学修：1年次に学んだ教育の思想、歴 史について復習しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の 学生の回答も確認する。			30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
8	コミュニケーション技法	事前学修：自分の癖など、身体が発するメッセージについて思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
9	教育メディアをめぐる子どもの現状	事前学修：教育実践における教育メディアの活用について自分の考えをまとめておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
10	幼児教育における教育メディアの活用① 保育者	事前学修：実習先での事務作業等での情報機器の活用状況について思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
11	幼児教育における教育メディアの活用② 子ども	事前学修：実習先での保育活動での情報機器の活用状況について思い返しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
12	教育メディアを活用した指導案① 検討（グループワーク）	事前学修：指導案作成のための準備をしておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
13	教育メディアを活用した指導案② 作成（グループワーク）	事前学修：指導案作成のための準備をしておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
14	教育メディアを活用した指導案③ 評価（グループワーク）	事前学修：他のグループの指導案を確認しておく。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
15	まとめ 「教育方法論」を通しての学びを振り返る	事前学修：15回の授業内容について復習してくる。 事後学修：授業内課題に取り組み、他の学生の回答も確認する。	30	30
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（グループワーク、ディスカッション）			
教科書	指定しない。プリントを配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。			
参考文献	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館			
備考	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。			

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

該当しない。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	菅原 弘		評価の方法	授業内課題等	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	1. 保育者の役割について理解する。 2. 協力して取り組んだことを整理し、他者へ伝えられるようにする。 3. それぞれの保育観を明確にする。									
学修者への期待等	基礎演習Ⅱは自分たちで課題を見つけ、それについて調べ、解決策を探ることが基本です。常に自分から学ぶという姿勢で臨んでください。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入				事前学修：追求課題の整理 事後学修：計画素案立案				30	30
2	講読①：特別支援教育・保育について（キャップハンディ体験）				事前学修：課題設定の理由の検討 事後学修：方法の吟味				30	30
3	講読②：特別な支援を要する子どもたちについて（キャップハンディ体験）				事前学修：具体的方法の検討 事後学修：授業内容の整理				30	30
4	講読③：特別な支援を要する子どもたちと家族（ディスカッション）				事前学修：各自の課題に沿った授業準備 事後学修：計画と方法の決定				30	30
5	講読④：支援の実際（教材作成・ディスカッション）				事前学修：教材作成準備 事後学修：教材工夫				30	30
6	講読⑤：支援者として（教材作成・ディスカッション）				事前学修：教材作成準備 事後学修：教材工夫				30	30
7	調査の準備①：問題意識の整理（グループワーク）				事前学修：計画修正 事後学修：教材工夫				30	30
8	調査の準備②：調査対象者の選定（ディスカッション）				事前学修：授業準備（調査等の概要） 事後学修：調査票等の作成				30	30
9	調査の準備③：質問事項の精査、作成（ディスカッション）				事前学修：授業準備（調査等の概要） 事後学修：調査票等の作成				30	30
10	調査の準備④：シミュレーション				事前学修：授業準備（仮調査） 事後学修：仮集計等				30	30
11	調査①：施設見学（フィールドワーク）				事前学修：事前調査 事後学修：見学のまとめ				30	30
12	調査②：インタビュー（フィールドワーク）				事前学修：事前調査 事後学修：インタビュー等のまとめ				30	30
13	報告書の作成①：調査の結果をまとめる				事前学修：まとめ案作成 事後学修：まとめの吟味				30	30
14	報告書の作成②：調査の結果を分析する				事前学修：調査分析 事後学修：調査分析結果の吟味				30	30
15	前期のまとめ：進捗状況の報告と後期の方針				事前学修：取組の整理 事後学修：発表資料の素案作成				30	30

回	授業計画	準備学修	事前学修時間 (分)	事後学修時間 (分)
16	報告書の作成③：調査の結果を考察する (ディスカッション)	事前学修：ゼミ内発表準備 事後学修：ゼミ内発表振り返り	30	30
17	報告書の作成④：課題を明確にする (ディスカッション)	事前学修：ゼミ内発表準備 事後学修：ゼミ内発表振り返り	30	30
18	ゼミ内発表資料作成（グループワーク）	事前学修：ゼミ内発表資料準備 事後学修：ゼミ内発表資料修正	30	30
19	ゼミ内発表練習	事前学修：ゼミ内発表資料準備 事後学修：ゼミ内発表練習	30	30
20	ゼミ内発表①：第1グループの発表	事前学修：ゼミ内発表シミュレーション 事後学修：ゼミ内発表振り返り	30	30
21	ゼミ内発表②：第2グループの発表	事前学修：ゼミ内発表シミュレーション 事後学修：ゼミ内発表振り返り	30	30
22	学科内発表原稿の作成	事前学修：学科内発表原稿素案作成 事後学修：学科内発表原稿修正	30	30
23	学科内発表原稿の作成と発表練習	事前学修：学科内発表練習 事後学修：学科内発表資料完成	30	30
24	学科内発表用レジュメの作成と提出 (グループワーク)	事前学修：学科内発表シミュレーション 事後学修：学科内発表修正	30	30
25	学科内発表準備	事前学修：学科内発表シミュレーション 事後学修：学科内発表修正	30	30
26	学科内研究発表会①第1グループの研究成果報告	事前学修：発表資料の熟読 事後学修：質問と回答を含めた振り返り	30	30
27	学科内研究発表会②第2グループの研究成果報告	事前学修：発表資料の熟読 事後学修：質問と回答を含めた振り返り	30	30
28	学科内研究発表会③第3グループの研究成果報告	事前学修：発表資料の熟読 事後学修：質問と回答を含めた振り返り	30	30
29	学科内研究発表会④第4グループの研究成果報告	事前学修：発表資料の熟読 事後学修：質問と回答を含めた振り返り	30	30
30	総括：研究活動の反省と課題	事前学修：学修の振り返り 事後学修：学びの整理	30	30
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（ディスカッション グループワーク フィールドワーク 体験）			
教科書	適宜資料を配布する			
参考文献	なし			
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。			

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

教諭として特別支援学校と小学校に30年以上勤務し、特別支援教育コーディネーターや生徒指導主任等も担当した。現場経験に基づき、教育実践で求められる研究的視点や児童理解を授業に活かします。
 [資格等] 小学校教諭一種免許、特別支援学校教諭専修免許、幼稚園教諭二種免許